

***Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 ヤスリヒメヨコバサミ**

(図 24)

調査標本. 鳥取県. 赤碕町 (琴浦町赤碕), 光荣丸, 1996年6月, 2 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM-甲 07-038. 北条町 (北栄町)・羽合町 (湯梨浜町)天神川河口沖合 4 km, 水深 30 m, 1992年6月8日, 1 乾燥オス (sl 9.2 mm), TRPM (未登録).

分布. 日本 (北海道函館から九州まで), 韓国 (Komai, 2001).

生息場所. 岩礁・岸壁; 水深 220 m 以浅 (Komai, 2001; 有馬, 2014).

備考. 本種のこれまでの記録には, 境水道 (Harada, 1968)および鳥取県 (Miyake et al., 1962)が含まれる. 調査標本に基づき, 鳥取県沿岸における出現を確認できた.

Komai (2001)は, 本種を詳細に再記載している. 加えて, *Paguristes kagoshimensis* Ortmann, 1892 のシタイプ (総模式標本)を再検討し, それが実際にはヤスリヒメヨコバサミ *Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 であることを判明させるとともに, それまで「カゴシマヒメヨコバサミ *P. kagoshimensis*」として報告されていた記録・標本について, 分類学的整理を行っている (Komai, 2001).



図 24. *Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 ヤスリヒメヨコバサミ, 鳥取県琴浦町赤碕, 性未確認個体 (sl 未測定), 乾燥.

Paguristes gonagrus (H. Milne Edwards, 1836) ヒノマルヒメヨコバサミ
(図 25)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 オス (sl 5.6 mm), TRPM-781. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 1 オス (sl 6.4 mm), TRPM-782. 鳥取市賀露～気高町酒津沖 40–50 km, 水深 40–50 m, 1995 年 9 月 14 日, 1 乾燥性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (相模湾から琉球列島, 鳥取県), 台湾, 中国, フィリピン (Komai, 2010; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 砂泥底, 貝殻まじりの砂れき底; 水深 13–200 m (Komai, 2010; Osawa and Ota, 2020).

備考. 日本国内の文献や図鑑 (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)では, ヒノマルヒメヨコバサミの学名は *Paguristes balanophilus* Alcock, 1905 として扱われてきた. *Paguristes gonagrus* と *P. balanophilus* の分類学的実体については, Rahayu and McLaughlin (2006)および Rahayu and Forest (2009)による, それら2種のタイプ (模式)標本の再検討で明らかにされ, その後 Komai (2010)により, *P. gonagrus* と和名「ヒノマルヒメヨコバサミ」を結び付ける詳細な記載がなされた.

本種の宿貝の表面は, *Epizoanthus ramosus* Carlgren 1934 (ヤドリスナギンチャク科 Epizoanthidae)の群体に覆われる (峯水, 2002; Komai, 2010; Reimer et al., 2010).



図 25. *Paguristes gonagrus* (H. Milne Edwards, 1836) ヒノマルヒメヨコバサミ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, オス (sl 6.4 mm).

***Paguristes ortmanni* Miyake, 1978 ケブカヒメヨコバサミ**

(図 7B, 26)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2010年6月4日, 1オス (sl 8.3 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 2010年6月18日, 1オス (sl 8.0 mm), 1抱卵メス (sl 7.3 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 2010年6月23日, 1メス (sl 7.4 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013年4月16日, 1メス (sl 6.4 mm), SNMH. 松江市島根町小具, 潮間帯, タイドプール, 2013年5月16日, 2オス (sl 8.9, 9.8 mm), SNMH. 松江市美保関町菅浦, 潮間帯, 転石下, 2011年8月6日, 1オス (sl 8.3 mm), SNMH. 隠岐の島町加茂 (隠岐諸島島後), 潮間帯, 2013年6月9日, 1オス (sl 8.0 mm). 鳥取県. 岩美町熊井浜, 2006年8月5日, 1オス (sl 未測定), TRPM-CB-0000124. 兵庫県. 豊岡市竹野町, スノーケルセンター前, 2007年7月17日, 1メス (sl 未測定), TRPM-CB-0000123.

分布. 日本 (北海道から九州まで, 伊豆大島), 韓国 (三宅, 1998; Komai, 2001; 奥野・有馬, 2004).

生息場所. 岩礁, 内湾; 潮間帯から水深 210 m (三宅, 1998; 有馬, 2014).

備考. 島根半島の日本海側の岩礁潮間帯において, ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887) やケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 とともに, 周年にわたって最も普通に確認できるヤドカリ類である. ケブカヒメヨコバサミは, ホンヤドカリおよびケアシホンヤドカリより大型になる.

Komai (2001) は, 本種を詳細に再記載している.



図 26. *Paguristes ortmanni* Miyake, 1978 ケブカヒメヨコバサミ, 島根県松江市島根町小具,オス (sl 9.8 mm).

***Paguristes versus* Komai, 2001** カゴシマヒメヨコバサミ
(図 27)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 3 オス (sl 4.9–5.8 mm), TRPM-783.

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島から大隅諸島; 日本海側: 富山県, 鳥取県), 韓国, 台湾 (菊池, 1932, *P. kagoshimensis* Ortmann, 1892 として報告; Komai 2001; McLaughlin et al. 2007; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 砂泥底; 水深 80–254 m (Komai 2001; McLaughlin et al. 2007; Osawa and Ota, 2020).

備考. 過去の文献 (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)では, カゴシマヒメヨコバサミの学名は *Paguristes kagoshimensis* Ortmann, 1892 として扱われていた. Komai (2001)は, *P. kagoshimensis* のシタイプ (総模式標本)を再検討し, それが実際にはヤスリヒメヨコバサミ *Paguristes digitalis* Stimpson, 1858 であることを明らかにし, 加えて「カゴシマヒメヨコバサミ」と呼ばれていたものを新種 *Paguristes versus* Komai, 2001 として記載した.



図 27. *Paguristes versus* Komai, 2001 カゴシマヒメヨコバサミ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, オス (sl 5.8 mm) (A); 同, エタノール液浸 (B).

Paguridae ホンヤドカリ科

Anapagurus japonicus Ortmann, 1892 ユミナリヤドカリ

(図 28)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町加茂湾 (隠岐諸島島後), 36°10'29.75" N, 133°16'48.73" E–36°10'28.90" N, 133°16'48.61" E, 水深 13–19 m, 砂底, そりネット, 2012 年 6 月 26 日, 2 オス (sl 2.5, 3.0 mm), 2 抱卵メス (sl 1.8, 1.8 mm), NSMT-Cr 23850. 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09'14.11" N, 133°14'27.46" E–36°09'18.65" N, 133°14'29.93" E, 水深 30 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 3 オス (sl 2.1–2.6 mm), 5 抱卵メス (sl 1.4–1.9 mm), NSMT-Cr 23851. 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09'10.30" N, 133°14'30.17" E–36°09'09.81" N, 133°14'20.51" E, 水深 30–39 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 5 オス (sl 1.9–2.4 mm), 1 抱卵メス (sl 1.7 mm), NSMT-Cr 23852.

分布. 日本沿岸のみから記録されている. 太平洋側: 房総半島から紀伊半島, 伊豆大島; 日本海・東シナ海側: 島根県 (隠岐諸島島後), 山口県萩市沖, 対馬, 天草諸島 (Komai et al., 2002; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2015). 加えて, 有馬 (2014) は, 琉球列島北部の屋久島において撮影された本種の生態写真を掲載している.

生息場所. 砂泥・砂れき底; 水深 20–83 m (Komai and Takeda, 2006; 有馬, 2014; 大澤ほか, 2015).

備考. 調査標本の採集地である隠岐の島町加茂湾 (隠岐諸島島後) では, 潮下帯の砂泥・砂れき底において, マダラヒメヤドカリ *Catapaguroides fragilis* (Melin, 1939) とともに採集された (大澤ほか, 2015).

本種のタイプ (模式) 標本は失われている (Komai and Takeda, 2006). García-Gómez (1994) は, 和歌山県と熊本県から採集された標本に基づき, 本種を再記載している.



図 28. *Anapagurus japonicus* Ortmann, 1892 ユミナリヤドカリ, 島根県隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), オス (sl 2.4 mm).

Catapaguroides fragilis (Melin, 1939) マダラヒメヤドカリ

(図 29)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町加茂湾 (隠岐諸島島後), 36°10'29.75" N, 133°16'48.73" E–36°10'28.90" N, 133°16'48.61" E, 水深 13–19 m, 砂底, そりネット, 2012年6月26日, 1抱卵メス (sl 1.4 mm), NSMT-Cr 23853. 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09'14.11" N, 133°14'27.46" E–36°09'18.65" N, 133°14'29.93" E, 水深 30 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012年6月27日, 2オス (sl 1.4, 1.8 mm), 1メス (sl 1.2 mm), 1抱卵メス (sl 1.5 mm), NSMT-Cr 23854. 隠岐の島町松島南 (隠岐諸島島後), 36°09'14.13" N, 133°15'04.29" E–36°09'14.80" N, 133°14'46.79" E, 水深 27–33 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012年6月27日, 4オス (sl 1.1–1.6 mm), 3メス (sl 0.9–1.1 mm), 1抱卵メス (sl 1.1 mm), NSMT-Cr 23855. 鳥取県. 岩美町田後沖, ヤマダシ, 35°60.2' N, 134°31.1' E, 水深 26 m, SCUBA, 2019年6月4日, 1抱卵メス (sl 1.2 mm), TRPM-793.

分布. 日本 (太平洋側: 小笠原諸島 兄島, 伊豆諸島 大島, 相模湾, 高知県, 大隅諸島; 日本海・東シナ海側: 鳥取県, 島根県 隠岐諸島島後, 熊本県天草市), 韓国, ムルロア (de Saint Laurent, 1968; Miyake, 1978; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2015; Kim and Kim, 2017; Komai, 2017; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 内湾の砂底, 砂泥底; 水深 10–75 m (有馬, 2014; Komai, 2017). 大澤ほか (2015)が隠岐諸島島後から記録した標本は, 水深 13–33 m の砂・砂れき底から得られた.

備考. Miyake (1978)がマダラヒメヤドカリ *Catapaguroides fragilis* として相模湾から報告している標本の一部 (9標本のうち7標本)については, Komai and Takeda (2006)がそれらの標本の再調査に基づき, ヒメヤドカリ *Catapaguroides japonicus* de Saint Laurent, 1968 であることを指摘しており, Miyake (1978)によるマダラヒメヤドカリの図 (text-fig. 53)は, 熊本県天草市からの標本に基づいた可能性が高いと述べている. 有馬 (2014)では, 伊豆半島および伊豆諸島大島において撮影されたマダラヒメヤドカリの生態写真が掲載されている. Komai (2017)は, タイプ (模式)標本を含めた日本産の標本に基づき, マダラヒメヤドカリを詳細に再記載している.

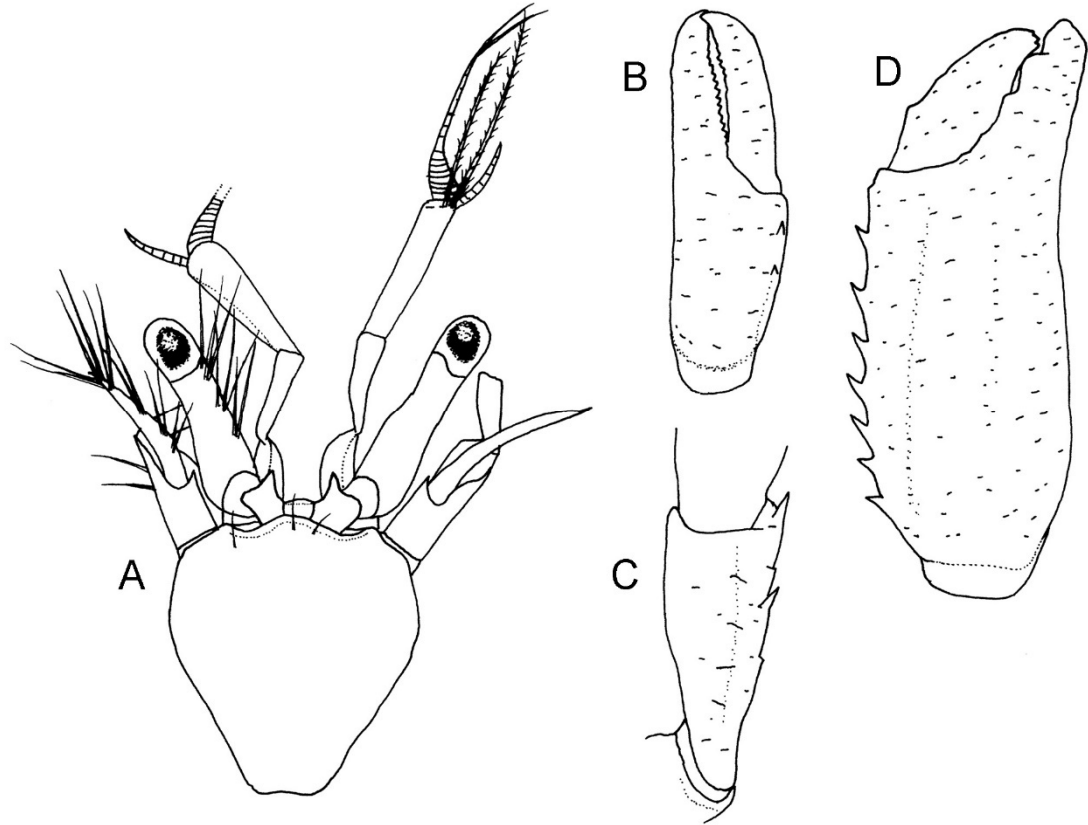


図 29. *Catapaguroides fragilis* (Melin, 1939) マダラヒメヤドカリ, 島根県隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), オス (sl 1.8 mm), 前甲 (A); 左鉗脚, 鉗部 (B); 左鉗脚, 腕節 (C); 右鉗脚, 鉗部 (D).

Elassochirus cavimanus (Miers, 1879) ゴトウヤドカリ

(図 30)

調査標本. 島根県. 浜田市沖, 35°02.5'N, 132°06.0'E, 水深 107 m, 底曳網, 島根県水産技術センター (浜田市), 2013 年 2 月 18 日, 2 オス (sl 17.0, 17.0 mm), SNMH.

分布. ベーリング海, オホーツク海, アリューシャン諸島, アラスカ湾, カナダの太平洋岸, アメリカ ワシントン州, 日本 (北海道から岩手県釜石市・島根県まで), 韓国 (岸田, 1963a; 三宅, 1998; Asakura, 2006; 本尾ほか, 2011).

生息場所. 石まじりの砂底; 水深 36–400 m (McLaughlin, 1974; 三宅, 1998; 有馬, 2014).

備考. 本尾ほか (2011)は, 島根県出雲市沖の水深 200 m 付近において操業されたバイかご漁によって採集された標本に基づき, ホンヤドカリ科の 3 種, ゴトウヤドカリ, ラスバンホンヤドカリ *Pagurus rathbuni* (Benedict, 1892), ミゾテホンヤドカリ *Pagurus undosus* (Benedict, 1892)を報告し, その時点での, これらの寒海・深海性種の南限記録であるとした. その後, 島根県浜田市, 出雲市, 隠岐諸島沖の標本に基づき, 寒海・深海性種としてオホーツクホンヤドカリ *Pagurus ochotensis* Brandt, 1851 およびミツカドホンヤドカリ *Pagurus trigonocheirus* (Stimpson, 1858)が追加記録された (大澤ほか, 2014; Komatsu, 2014). なお, オホーツクホンヤドカリとミツカドホンヤドカリは山口県萩市沖からも報告されており, 当水域がそれら 2 種の現時点での南限記録となっている (土井ほか, 2014; 園山ほか, 2017b).



図 30. *Ellassochirus cavimanus* (Miers, 1879) ゴトウヤドカリ, 島根県浜田市沖, オス (sl 17.0 mm).

***Lophopagurus triserratus* (Ortmann, 1892) セルプラヤドカリ**

(図 31)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町四敷島南 (隠岐諸島島後), 36°09′00.65″ N, 133°14′14.97″ E–36°09′02.02″ N, 133°14′13.88″ E, 水深 47 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 1 オス (sl 1.8 mm), NSMT-Cr 23856. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 オス (sl 2.4 mm), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 80 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録). 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′N, 134°00′E, 水深 80 m, けた網, 2018 年 8 月 20 日, 2 性未確認個体 (sl 未測定), TRPM (未登録).

分布. 日本 (太平洋側: 房総半島, 相模湾, 田辺湾, 伊豆諸島, 小笠原諸島; 日本海・東シナ海側: 京都府若狭湾から熊本県天草諸島), 韓国, 台湾, 東シナ海, 南シナ海, インドネシア, オーストラリア, ニュージーランド (Yokoya, 1933; 三宅, 1998, *Pylopagurus serpulophilus* Miyake, 1978 として報告; Komai, 1999a, *Australeremus triserratus* として報告; de Saint Laurent and McLaughlin, 2000; Asakura, 2006; 大澤ほか, 2015, *Lophopagurus (Australeremus) triserratus* として報告).

生息場所. 岩礁, 岩底; 水深 60–400 m (de Saint Laurent and McLaughlin, 2000; Komai and Takeda, 2006; 有馬, 2014). 隠岐諸島島後の標本は, 水深 47 m の砂れき底から得られた (大澤ほか, 2015).

備考. *Pylopagurus serpulophilus* Miyake, 1978 (セルプラヤドカリの和名が与えられていた; 三宅 (1998)を参照)と *Lophopagurus triserratus* (Ortmann, 1892)は, 同一種であると結論付けられている (McLaughlin and Gunn, 1992; Komai, 1999a).

本種は通常, 巻貝を利用するが, カンザシゴカイ類の空になった棲管の中に入ることも知られている (有馬, 2014). 調査標本の多くは, カンザシゴカイ類の空になった棲管を利用していた.

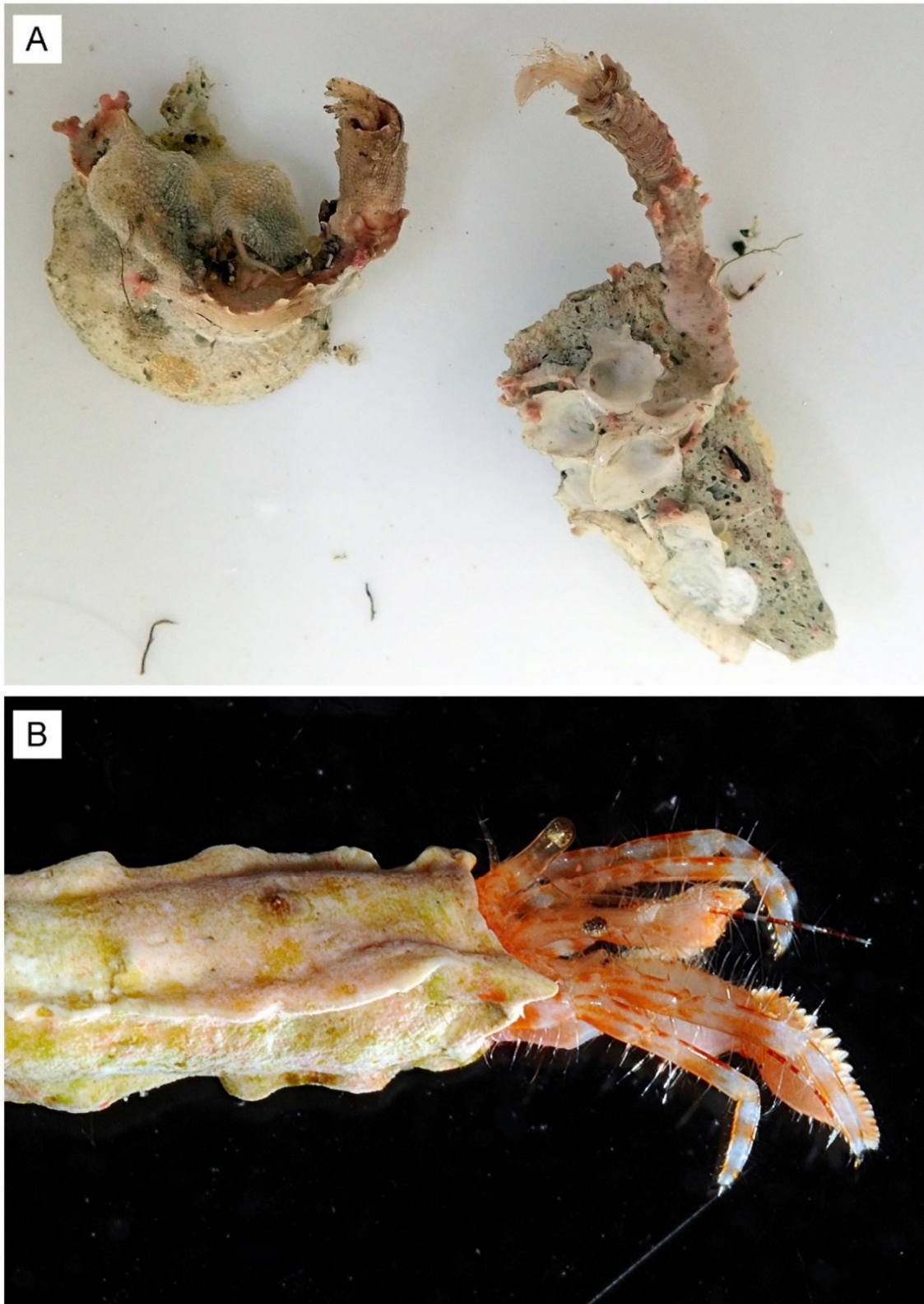


図 31. *Lophopagurus triserratus* (Ortmann, 1892) セルプラヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, 性未確認個体 (sl 未測定) (A); 島根県隠岐の島町四敷島南 (隠岐諸島島後), オス (sl 1.8 mm) (B).

Nematopagurus australis (Henderson, 1888) ツメナガイトヒキヤドカリ

(図 32)

調査標本. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55'N, 134°00'E, 水深 100 m, けた網, 2018 年 5 月 15 日, 1 メス (sl 4.3 mm), TRPM-784.

分布. 日本 (相模湾, 駿河湾, 鳥取県), 東シナ海, 台湾, 南シナ海, マレーシア, インドネシア, ニューカレドニア, フィジー (McLaughlin 2004; Komai and Takeda 2006; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 泥・砂泥底; 水深 417 m 以浅 (McLaughlin 2004; Osawa and Ota, 2020).

備考. 調査標本は右鉗脚を失っていたが, 左鉗脚や歩脚の形態に基づき, 本種に同定された (McLaughlin, 2004; McLaughlin et al., 2007 を参照). Miyake (1978)により *Pagurus pilosipes* (Stimpson, 1858)と同定された相模湾および東シナ海産の標本の一部は, ツメナガイトヒキヤドカリであることが判明している (Komai, 2003a, *Nematopagurus* sp.として報告; Komai and Takeda, 2006).



図 32. *Nematopagurus australis* (Henderson, 1888) ツメナガイトヒキヤドカリ, 鳥取県鳥取市長尾鼻沖, メス (sl 4.3 mm) (A); 同, エタノール液浸 (B).

Nematopagurus tricarinatus (Stimpson, 1858) イトヒキヤドカリ

(図 33)

調査標本. 島根県. 隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 36°09′14.11″ N, 133°14′27.46″ E–36°09′18.65″ N, 133°14′29.93″ E, 水深 30 m, 砂れき底, 三角ドレッジ, 2012 年 6 月 27 日, 1 メス (sl 3.4 mm), NSMT-Cr 23857. 鳥取県. 鳥取市長尾鼻沖, 35°55′ N, 134°00′ E, 水深 50 m, けた網, 2018 年 7 月 13 日, 1 オス (sl 3.1 mm), TRPM-794.

分布. 日本 (太平洋側: 相模湾, 伊豆大島, 紀伊半島, 土佐湾, 鹿児島県; 日本海・東シナ海側: 鳥取県, 島根県, 福岡県), 台湾, 南シナ海, インドネシア (Asakura, 2006; 奥野・有馬, 2006; 大澤ほか, 2015; Osawa and Ota, 2020).

生息場所. 内湾の砂泥・砂れき底; 水深 9–72 m (Komai and Takeda, 2006; 有馬, 2014; 大澤ほか, 2015).

備考. イトヒキヤドカリの学名には, *Nematopagurus vallatus* (Melin, 1939)があてられてきたが, McLaughlin (2004)は, 日本からの *N. vallatus* の記録の多く (例えば, Miyake, 1978; 三宅, 1998)が *N. tricarinatus* のものであろうと述べている. 日本国内の確証のある *N. vallatus* の記録は, タイプ (模式)産地である小笠原諸島に限られる一方, ニューカレドニアおよびノーホーク海嶺からも本種が記録されている (McLaughlin, 2004).

イトヒキヤドカリは, *N. vallatus* に形態が類似するが, 左右鉗脚の掌部背面の竜骨状隆起の間にこぶ状突起を欠くことで後者から区別できる (McLaughlin, 2004).



図 33. *Nematopagurus tricarinatus* (Stimpson, 1858) イトヒキヤドカリ, 島根県隠岐の島町四敷島東 (隠岐諸島島後), 1 メス (sl 3.4 mm).